



研究発表プログラム 口頭発表

発表時間：1 鈴 9 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（質疑討論終了）
（スペシャルセッション（SP）はセッションごとに異なります）

9 月 1 4 日（月） 08：30 ～ 12：00

A 会場（2 号館 1 階 C122 講義室）

09：00～12：00

氷床

座 長：井上峻（国立極地研究所），鈴木拓海（宇宙航空研究開発機構）

- A1-01 グリーンランド・南東ドームアイスコアの構造異方性の形成過程
○松本真依，飯塚芳徳，安達聖，猿谷友孝，藤田秀二
- A1-02 グリーンランド南東ドームアイスコアの森林火災イベント層に含まれるオレイン酸アミド粒子
平野瑞幸，○飯塚芳徳，安藤卓人，川上薫，松本真依，黒崎豊，大野浩，的場澄人，森章一，佐藤陽亮，斎藤史明
- A1-03 第 3 期ドームふじ氷床深層掘削—第 67 次南極地域観測（2025-2026）深層掘削 2 シーズン目の報告—
○川村賢二，中澤文男，小原徳昭，井上峻，猿谷友孝，大藪幾美，江刺和音，鈴木舞生，熊倉有希，平林幹啓，津滝俊，森章一，佐藤陽亮，菊池雅行，小林明男，吉瀬也寸志，第 3 期ドームふじ計画推進委員会
- A1-04 火山シグナル同期による第 3 期ドームふじ氷床コアの速報年代推定（0- 1780 m）
○浅尾宗洋，鈴木舞生，大藪幾美，井上峻，猿谷友孝，藤田秀二，平林幹啓，東久美子，尾形純，阿部彩子，齋藤冬樹，小長谷貴志，松本真依，川村賢二，第 3 期ドームふじコア処理チーム，第 3 期ドームふじ計画委員会
- A1-05 南極ドームふじのフィルン深部における気泡中の $\delta^{15}\text{N}$ と $\delta \text{O}_2/\text{N}_2$ ， $\delta \text{Ar}/\text{N}_2$ の深度分布
○井上峻，大藪幾美，川村賢二，北村享太郎，鈴木舞生，藤田秀二，中澤文男，津滝俊，平林幹啓
- A1-06 南極 H128 アイスコアを用いた積雪再配分および周辺海域の海水復元
○北爪正希，松本真依，松崎倭太郎，柳沼蒼良，近藤ひかる，平野瑞幸，渡辺祥多，西野沙織，的場澄人，黒崎豊，川上薫，川村賢二，本山秀明，飯塚芳徳
- A1-07 南極沿岸域 H128 地点の表層付近における誘電異方性の深度変化
○柳沼蒼良，松本真依，的場澄人，藤田秀二，川村賢二，栗田直幸，堀彰，前田楓太，飯塚芳徳
- A1-08 南極氷床青氷域における短波放射の内部吸収が融解水流出に及ぼす影響
○斉藤潤，箕輪昌紘
- A1-09 東南極ラングホブデ氷河で測定した潮位変動に伴う氷流動と氷破碎メカニズム
○箕輪昌紘，Podolskiy Evgeny，杉山慎
- A1-10 Geophysical investigations on an active subglacial lake beneath Telen Glacier, East Antarctica
○近藤研，箕輪昌紘，波多俊太郎，辻健，松岡健一，Lu Kai，Cui Xiangbin，Lv Chen，Hao Tong，田中智，杉山慎
- A1-11 Simulations of the Greenland Ice Sheet under Future Global Warming Scenarios: Contributions to ISMIP7 using the Models SICOPOLIS and ISSM
○Greve Ralf，Sartore Nicolas，Kleiner Thomas，Humbert Angelika，Mueller Ralf
- A1-12 クレータ様地形からの溢流氷河形成境界条件 —涵養量に関する考察—
○豊山孝子



B 会場（2号館1階 C121 講義室）

08：30～12：00

SP1: 「雪害」×「レジリエンス」：雪害をしなやかに乗り越える雪国の知恵

座 長：諸橋和行（中越防災安全推進機構）

- B1-01 2025/26 札幌都市圏大雪の記録ー2012/13 多雪年や 2021/22 雪害年との違いを考えるー
○丹治和博，尾関俊浩，白川龍生，松岡直基，金田安弘
- B1-02 2026 年 1 月札幌大雪時の積雪断面観測結果とその特徴
○白川龍生，尾関俊浩，松岡直基，丹治和博，金田安弘
- B1-03 札幌と岩見沢の降雪特性の違いー2026 年冬や 2021 年冬の大雪を通してー
○松岡直基，丹治和博，尾関俊浩，白川龍生，金田安弘
- B1-04 2025/2026 年冬期の青森県津軽地方における広域積雪調査ー同規模のりんご被害をもたらした「異なる大雪」の積雪特性ー
○荒川逸人，安達聖，石田祐宣，根本征樹，山口悟，中村一樹
- B1-05 2025-26 年、新潟県長岡市周辺での大雪災害の概要
○上石勲
- B1-06 多雪急峻地形を有する北陸地域における湿雪雪崩の数値シミュレーションと規模推定手法の検討
○杉浦幸之助，高柳征弥，堀雅裕
- B1-07 機械学習を用いた北海道旭川市における人身雪害発生予測
○阿部祥希，上村靖司，杉原幸信
- B1-08 機械学習を用いた長岡市除雪事故注意情報の社会実装に向けた取り組み
○中村一樹，本吉弘岐，諸橋和行，杉原幸信，上村靖司
- B1-09 暴風雪・大雪時の災害デジタルアーカイブを用いた道路管理判断支援システムの構築に向けてーシステムの概要と 2025/26 冬期試験運用後の改善方針ー
○原田裕介，武知洋太，越國一九，松下拓樹
- B1-10 自治体向け暴風雪タイムラインの作成
○和田直人，白川龍生，荒川逸人，根本征樹，中村一樹，諸橋和行，原田裕介
- B1-11 道路除排雪に関する住民の要望・苦情の地域比較ー気象条件と置き雪に関する要望・苦情に注目してー
○杉原幸信，小野寺誠，上村靖司
- B1-12 極端豪雪に備える雪下ろし事業者等による広域応援の仕組みづくり（その 2）ー豪雪交付金を活用した新潟県事業の総括ー
○諸橋和行
- B1-13 流雪溝を巡る協働性ー雪国レジリエンスへの拡張に向けた試論ー
○小西信義
- B1-14 豪雪地における住民の自己効力感と「レジリエンス」ー新潟県十日町市の住民活動をめぐる人類学的考察からー
○北川真紀，宇野咲耶子，田中健人，山本尚毅，譚林宣



C 会場（2号館2階 C221 講義室）

09：00～12：00

積雪・融雪

座 長：本谷研（秋田大学），平島寛行（防災科学技術研究所）

- C1-01 大雪山系雪壁雪渓の質量収支の研究（Ⅲ）－2023 年，2024 年に完全消失し，2025 年に再び越年した理由および将来予測－
○亀田貴雄，高橋修平，白川龍生，高橋伸幸
- C1-02 青森・弘前における 2024/25 年冬期および 2025/26 年冬期の大雪特性
○小野亨太，白川龍生
- C1-03 岐阜県大野郡白川村における 2025 年度冬季積雪観測
○松宮央登，野口恭平，牧野卓也，岡田雅宏，森山公雄，秦聡一朗
- C1-04 1km 地域気候モデルを用いた北アルプスの長期積雪シミュレーション
○川瀬宏明，福井真，福井幸太郎，飯田肇，浜田崇
- C1-05 数値モデルを用いた積雪中における氷板形成過程の解析
○平島寛行，白川龍生，八久保晶弘，大澤光
- C1-06 多目的ダムの運用高度化に向けた UAV-LiDAR による積雪深計測技術の開発
○上原悠生，畠中和明
- C1-07 指模擬接触子を用いた積雪断面構造把握
○小松麻美，柴田圭，齋藤庸賀，西村浩一
- C1-08 「盃状くぼみ」の形成過程－汚れによって形成・制御されるくぼみ－
○福原さくら，河島克久，渡部俊
- C1-09 広波長帯域アルベド観測値による積雪粒径，光吸収性粒子濃度，雲の光学的厚さの遠隔抽出
○青木輝夫，谷川朋範，庭野匡思，大河原望，的場澄人
- C1-10 湿雪含水率の波長依存性の考察－含水率と反射率の関係性を活かす－
○大前宏和，三宅俊子，守田克彰，山口悟
- C1-11 北海道北見における積雪不純物の季節変化と気象条件との関係
○皆川沙由里，白川龍生，八久保晶弘，大河原望，谷川朋範，庭野匡思
- C1-12 新潟県大白川における積雪表層不純物濃度の時間変化－不純物の流下量と濃縮効果の推定－
○船木明日奈，佐藤亮太，河島克久，松元高峰



研究発表プログラム 口頭発表

発表時間：1 鈴 9 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（質疑討論終了）
（スペシャルセッション（SP）はセッションごとに異なります）

9 月 1 4 日（月） 13 : 00 ～ 15 : 30

A 会場（2 号館 1 階 C122 講義室）

13 : 00～14 : 30

凍土

座 長：大石雅人（株式会社 精研）

- A1-13 多地点観測と機械学習による北海道山岳域の高精細気温分布－山岳永久凍土ポテンシャルマッピングへの適用例－
○石川守
- A1-14 アラスカにおける永久凍土融解深の面的調査に基づく現状分析－現地調査結果と数値解析・InSAR 画像分析との比較－
○蟹江俊仁，北野羽衣，阿部隆博，斉藤和之
- A1-15 Recognition of periglacial indicators of Andean environmental changes in the 21st century
○トロンボット・リアウダトダリオ，斉藤和之
- A1-16 凍土・寒冷環境を利用したモンゴルの地下貯蔵庫 その 2－拡張・持続可能性の検討－
○斉藤和之，Jambaljav Yamkhin
- A1-17 電気探査法を用いた見掛け抵抗と土壌凍結深の関係の解明
○原田鉦一郎，大場春佳，徳田岳
- A1-18 地盤凍結におけるアイスレンズの成長速度，成長面温度に関する実験研究
○石崎武志

14 : 30～15 : 30

気候システム

座 長：田村健太（防災科学技術研究所）

- A1-19 ドームふじ観測拠点 II で観測された過冷却水滴雲
○佐藤和敏，猪上淳
- A1-20 日本海側温暖多雪地域の月平年値における気温・積雪・降水量間の関係と近年の変遷の特徴
○石坂雅昭，本吉弘岐
- A1-21 長期有人観測が解き明かす極端降雪の変化－70 年間の北海道大学雨龍研究林における有人観測データから－
○鈴木和良，小林真，岡本智子
- A1-22 GOSAT-GW/AMSR3 標準プロダクト評価結果報告
○島田利元，可知美佐子，吉澤枝里，小原慧一，会田健太郎，中田和輝，鈴木拓海

B 会場（2 号館 1 階 C121 講義室）

13 : 00～15 : 30

SP2: 雪氷の造形に関する自由研究（2026・北見）

座 長：納口恭明（Dr. ナダレンジャー）

- B1-15 大規模な斑点ぬれ雪現象－金沢市での事例と観察の条件－
○村井昭夫



- B1-16 屋根雪の断続的落雪を再現する離散ブロックモデル
○田邊章洋，齋藤佳彦
- B1-17 ピラミッド面を持つ凍結溢泌液 一形の特徴と結晶面の大きさー
○藤野丈志
- B1-18 野外観察をもとにした結晶霜の分類の試み
○荒木健太郎，藤野丈志
- B1-19 「盃状くぼみ」の分類
○福原さくら，河島克久
- B1-20 筑波山における野外観察で見られた“お宝”雪結晶
○佐々木恭子，荒木健太郎
- B1-21 植物シモバシラの氷
○武田一夫
- B1-22 雪形「川の字」は温暖化時代を生き延びることができるか？
○河島克久，小林俊市，加藤正明
- B1-23 雪巻物 2025-26 ーDr. ナダレンジャーの雪氷自由研究 4 ー
○納口恭明
- B1-24 屋根は雪氷造形の華舞台
○和泉薫

C 会場（2号館2階 C221 講義室）

13：00～14：45

雪氷物理

座 長：木田真人（北見工業大学）

- C1-13 多結晶氷板に見られる定常クリープの温度依存性ー定常クリープの速度減少と開始時間遅延ー
○永山昌史，佐々木美季，齋藤友貴，二村真由，田中之博，内田努
- C1-14 自由落下方式による落氷雪体の衝撃力評価 ー氷塊試験体の入射角による影響ー
○影山典広，南波宏介，松宮央登，岡崎友紀
- C1-15 雪氷用 X 線 CT 計測による積雪内空隙径分布を用いた水分特性曲線の推定
○山口悟，安達聖，勝島隆史
- C1-16 氷点下温度におけるガスハイドレート分解挙動の理解
○竹谷敏，八久保晶弘
- C1-17 自己保存条件下におけるガスハイドレート表面変化のその場観察
○大島基，竹谷敏，神裕介，鈴木清史，長尾二郎
- C1-18 CO₂ハイドレート結晶中の CO₂ 自己拡散係数の推定
○米谷玲惟，八久保晶弘，竹谷敏
- C1-19 結晶構造 II 型ハイドレートの小ケージのみに包接させた場合のメタン炭素同位体分別
○後藤大和，八久保晶弘，竹谷敏

14：45～15：30

雪氷化学

座 長：平林幹啓（国立極地研究所）

- C1-20 陸別町で実施した海水水槽実験によるフロストフラワー形成時の海水成分の化学分別
○的場澄人，中山雅茂，平松和彦，近藤ひかる，西野沙織，北海道陸別町しばれ技術開発研究所
- C1-21 放射製氷における花の取り込み速度が氷柱花の気泡発生に及ぼす影響
○東條将也，上村靖司，杉原幸信
- C1-22 チミケップ湖で採取した降雪に含まれるマイクロプラスチックの分析
○山下晏輝，黒崎豊，飯塚芳徳，大野浩



研究発表プログラム 口頭発表

発表時間：1 鈴 9 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（質疑討論終了）
（スペシャルセッション（SP）はセッションごとに異なります）

9 月 1 5 日（火） 09：00 ～ 10：30

A 会場（2 号館 1 階 C122 講義室）

09：00～10：30

雪崩（1）

座 長：勝島隆史（森林総合研究所）

- A2-01 融雪に伴う雪崩発生条件について
○松下拓樹，吉井昭博
- A2-02 湿雪雪崩を対象とした積雪層と土層との境界部におけるせん断抵抗力について
○田本修一，丸藤大樹，吉井昭博，松下拓樹，日外勝仁
- A2-03 画像解析から推定した斜面積雪のグライド速度の精度検証
○神谷弘志，河島克久，伊豫部勉，松元高峰，佐藤匠，加藤大佑，本間信一
- A2-04 積雪に埋設した灌木の倒伏が雪崩発生に及ぼす影響
○鶴岡理佐子，小田憲一，勝島隆史，松元高峰，中村勝哉，古川樹花，小林義和
- A2-05 2026 年春に発生した北海道無意根山の全層雪崩- 調査とシミュレーションモデルによる再現解析 -
○齋藤佳彦，田邊章洋，布川大暉，イセンコエフゲーニール，西村浩一
- A2-06 東海北陸自動車道袴腰トンネル工事における応急雪崩対策の事例
○松崎茉優，西田陽一，矢部尚哉，南原晃隆，細井匡之

B 会場（2 号館 1 階 C121 講義室）

09：00～10：30

海水と陸氷

座 長：谷川朋範（気象研究所）

- B2-01 高解像度海水密接度推定のための衛星データ融合型教師データ生成手法
○杉村剛，丹羽淑博，小野純，矢吹裕伯
- B2-02 極地研における北極海全域を対象とする短期海水予測サービスの海水縁予測精度の評価
○丹羽淑博，大山元夢，小野純，杉村剛，矢吹裕伯
- B2-03 ADS 及び海水情報室(ASIC)による海水情報創成の将来戦略
○矢吹裕伯，丹羽淑博，杉村剛，大山元夢，小野純
- B2-04 2025 年南極昭和基地東方に形成された乱氷帯
○牛尾収輝
- B2-05 湖水塩分を考慮した橈型電磁誘導式氷厚計によるサロマ湖水厚測定の高精度化
○松本大輝，舘山一孝
- B2-06 湖水モデルの感度実験とモデル間比較ーフィンランドのオラヤルヴィ湖と北海道釧路市の春採湖の観測データによる検証ー
○牛塚貴博，亀田貴雄，吉川泰弘，川口悠介，佐藤和敏



C会場（2号館2階 C221 講義室）

09：00～10：30

雪氷と建築

座長：五十嵐賢次（新潟工科大学）

- C2-01 折板屋根先端に生じる氷柱の形成抑制に関する研究
○小松喜美，佐藤修生
- C2-02 RANS 繰り返し解析によるフェンス近傍の堆雪形状推定
○高橋勇騎，高橋徹
- C2-03 飛雪・融雪統合モデルに基づく長期積雪分布予測フレームワークの構築
○李心怡，田中龍二，松田哲裕，小野晋太郎，堤拓哉，富永禎秀
- C2-04 屋根雪による人的・経済的被害とロープ方式による雪庇除去方法の開発についてー雪庇除去ツール（ナイアガラカット）の検証ー
○福地政弘
- C2-05 観測用建物モデルを用いた屋根雪荷重の推定手法に関する研究ー2025/26 シーズンの加速度・ひずみ計測結果ー
○涌井将貴，五十嵐賢次，富永禎秀，本吉弘岐
- C2-06 観測用建物モデルを用いた屋根積雪重量の実測ー2025/26 シーズン地上積雪重量・推定値との比較ー
○五十嵐賢次，涌井将貴，本吉弘岐，富永禎秀



研究発表プログラム 口頭発表

発表時間：1 鈴 9 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（質疑討論終了）
（スペシャルセッション（SP）はセッションごとに異なります）

9 月 1 6 日（水） 09 : 00 ~ 12 : 00

A 会場（2 号館 1 階 C122 講義室）

09 : 00~10 : 00

雪氷と生物

座 長：永塚尚子（海洋研究開発機構）

- A3-01 アラスカ州グルカナ氷河に発生する赤雪の定点カメラ時系列解析
○澁谷圭佑，小野誠仁，鈴木拓海，阿部稜平，大沼友貴彦，薄羽珠ノ介，小熊宏之，岡本遼太郎，竹内望
- A3-02 日本列島の季節性積雪における雪氷藻類の地理的分布の違いとその要因
○北川康太，植竹淳
- A3-03 北日本の積雪における雪氷繊毛虫の分布
○ウィルソンライアン，植竹淳
- A3-04 山形県月山の樹林帯積雪における生物活動を介した窒素循環
○小野誠仁

10 : 15~12 : 00

氷河（1）

座 長：近藤研（名古屋大学）

- A3-05 グリーンランド北西部ボードイン氷河末端部における標高変化
○見米富視，矢澤宏太郎，今津拓郎，杉山慎
- A3-06 グリーンランド北西部ボードイン氷河における近年の末端変動と安定性
○矢澤宏太郎，杉山慎
- A3-07 Widespread lake-terminating glacier slowdown despite ice-marginal lake expansion in Greenland
○Wang Yefan, Nienow Peter, Otero Jaime, Goldberg Daniel
- A3-08 グリーンランド北西部カナック氷帽の流出水量シミュレーション
○今津拓郎，杉山慎
- A3-09 白瀬氷河および茅氷河における氷厚の経年変化の観測
○佐竹祐里奈，中村和樹
- A3-10 東南極ホノール氷河棚氷におけるリフト発達とカービングの特性
○田中寛人，箕輪昌紘，斉藤潤
- A3-11 東南極白瀬氷河における潮汐変動に応じた流動変化メカニズムの解明
○説田周，箕輪昌紘，波多俊太郎，近藤研，杉山慎

B 会場（2 号館 1 階 C121 講義室）

09 : 00~12 : 00

降雪・着氷雪（1）

座 長：角谷啓太（明治大学），田邊章洋（防災科学技術研究所）

- B3-01 2026 年冬季日本海海洋前線帯の大気海洋集中観測—豪雪をもたらす大気海洋過程の解明に向けて—
○本田明治，柏野祐二，西川はつみ，天野未空，岸琴心，大久保柊，戸川元貴，坂本岳央，内堀可廉



- B3-02 日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）の分布傾向と大気場の特徴
○高橋聖夢，本田明治，高橋直也，木村祐輔
- B3-03 日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）に伴うメソβスケール渦の鉛直構造
○内堀可廉，本田明治，高橋直也
- B3-04 2025年2月北海道十勝平野の大雪はなぜ集中したのか？ー冷気層と沿岸前線の発生状況・発達過程と降水への影響ー
○荒木健太郎，立花義裕，白川龍生
- B3-05 首都圏での降雪に関わる気温低下の地域特性
○仙石和正，日下博幸
- B3-06 雪結晶のベルトコンベア型自動撮像装置の開発と2025-2026冬季観測の解析結果
○角谷啓太，倉本颯也，鈴木香寿恵，鈴木秀彦
- B3-07 地上における降雪分布推定に向けた降雪移流拡散モデルの開発と検証
○田邊章洋，山下克也，田村健太，根本征樹，本吉弘岐，大風翼
- B3-08 陸別における降雪・積雪の長期観測
○平沢尚彦，小西啓之，飯島滋裕，櫻井俊光
- B3-09 北海道北見市における2025/26冬期の降雪粒子と積雪初期層の形成過程ー降雪時の気象条件に着目してー
○大橋康樹，白川龍生，八久保晶弘
- B3-10 スギ樹冠の着雪率に及ぼす気象条件および降雪粒子特性の影響
○勝島隆史，勝山祐太，竹内由香里
- B3-11 着雪影響試験のための湿雪降雪装置の導入
○佐藤研吾，富樫数馬，根本征樹
- B3-12 全天候型人工気象室を用いた着雪試験技術の開発（第2報）
○ニンガラディヘマントスバハス，榎浩之，吉田樹，嶋寿泰，松宮央登，野口恭平

C会場（2号館2階 C221 講義室）

09：00～12：00

雪氷と社会基盤

座長：大橋一仁（北海道開発技術センター），坂東和郎（株式会社興和）

- C3-01 道路除雪に影響する要因の整理についてー持続可能な除雪体制を維持するためにー
○山田充
- C3-02 「吹雪の視界情報」の吹雪時における活用状況ー2025年度冬期のアンケート調査よりー
○越國一九，武知洋太，松下拓樹
- C3-03 実況降雪に基づく通行止め基準の運用成果と路面状態指標を用いた今後の展望
○川島新揮，大西圭児，櫻田和也，高畑猛
- C3-04 人流データを用いた大雪時における経路選択特性の分析
○村田晴彦，河島克久，卜部厚志
- C3-05 車載カメラ画像と道路属性情報を用いた冬季路面雪氷状態の推定手法の検討
○甘利稜馬，稲津將，中村一樹
- C3-06 融雪装置制御のためのLiDARセンサによる積雪分布の把握
○福原匠流，上村靖司，杉原幸信，藤野丈志，野内冴希
- C3-07 関越自動車道における雪堤崩壊の発生頻度と多発地点の特徴
○大津草介，佐々木和也，杉原幸信，上村靖司，後藤和浩，荒川涼，町田敬
- C3-08 旧道の岩盤斜面における変状等の着目箇所に対する湧水や氷柱の発生状況についてー北海道西部の積丹半島沿いの道路斜面における調査事例ー
○岡崎健治，川又基人，日外勝仁
- C3-09 立入防止柵の沈降力による胴縁損傷対策の一考察
○松嶋秀士，上石勲，中村一樹，山口悟，金田学，新宮正盛，宮澤正人



- C3-10 循環量の異なる場合における熱応答試験データの評価検討（2）
○山口正敏
- C3-11 廃孔井戸を活用した地中熱ヒートパイプ融雪の地中熱供給機構について
○五十石浩介，藤野丈志，水戸部将人，野内冴希，碓井大成，沼屋賢一，井上朋也
- C3-12 雪散布によるアスファルト舗装の冷却過程と舗装品質に及ぼす影響
○山田佳汰，杉原幸信，上村靖司，高橋修，後藤和浩，荒川涼，大倉孝雄

D 会場（1号館1階 A101 講義室）

09：00～11：45（休憩 10：15～10：30）

雪崩（2）

座 長：松下拓樹（土木研究所 寒地土木研究所），町田敬（町田建設株式会社）

- D3-01 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その9）－雪庇と吹きだまりの形成過程と構造の解明に向けて（その1）－
○布川大暉，田邊章洋，西村浩一，齋藤佳彦，大風翼，山口悟，安達聖，伊藤陽一
- D3-02 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その12）－雪庇と吹きだまりの形成過程と構造の解明に向けて（その2）－
○西村浩一，安達聖，布川大暉，田邊章洋，齋藤佳彦，山口悟，伊藤陽一，大風翼
- D3-03 妙高山域幕ノ沢において2026年1月25日に発生した雪崩
○竹内由香里，勝山祐太，勝島隆史，安達聖，西井稜子
- D3-04 積雪変質モデルの雪崩発生予測への適用と問題点の検討－2025年12月北海道上川地方で発生した雪崩事例での検証－
○坪田昌也，西村浩一，大槻政哉
- D3-05 乾雪表層雪崩発生時の雪崩危険度の変化傾向と通行止め解除時期の考察－R39 石北峠及びR273 三国峠での雪崩発生事例10件の解析結果－
○横山博之，亀田貴雄，高橋修平
- D3-06 長野県におけるなだれ注意報基準と雪崩発生事例に関する検証
○太田あみ
- D3-07 観察データの共有とコミュニケーションによる雪崩安全対策－雪崩セイフティ・サポーターズ・クラブ－
○出川あずさ
- D3-08 火山砕屑物と雪を含む複雑泥流のせん断降伏に関する研究
○小田憲一，桂木洋光，新屋啓文，佐々木勇人
- D3-09 RAMMSを用いた雪崩運動解析の感度分析とVoellmyモデルとの比較
○長谷川能丈，森将恒，龍田栄次，山口悟，上石勲，田邊章洋，山田靖之
- D3-10 高強度金網を用いた雪崩予防・落石防護兼用柵に関する実物大実験
○河野和人，橋口寛史，金子則夫



研究発表プログラム 口頭発表

発表時間：1 鈴 9 分，2 鈴 12 分（発表終了），3 鈴 15 分（質疑討論終了）
（スペシャルセッション（SP）はセッションごとに異なります）

9 月 1 6 日（水） 13 : 00 ~ 15 : 15

A 会場（2 号館 1 階 C122 講義室）

13 : 00~15 : 00

氷河（2）

座 長：有江賢志朗（宇宙航空研究開発機構），小林綺乃（国立極地研究所）

- A3-12 カムチャッカアイスコアに含まれる微粒子の物理化学特性の過去 50 年間の変動
○永塚尚子，長島佳菜，的場澄人
- A3-13 東パミール・Kon Chukurbashi 氷帽アイスコアの年代決定と表面質量収支の復元
○近藤ひかる，的場澄人，黒崎豊，松本真依，柳沼蒼良，松崎倅太郎，北爪正希，平野瑞幸，飯塚芳徳，Miles Evan, Kutuzov Stanislav, Saks Tomas, Mattea Enrico, 近藤研, Lavrentiev Ivan, Kayumova Dilorom, Jahongir Abdullof, Jovidon Davlatov, Henz Andreas, Zebokhonim Khushnazarova, Sheralizoda Nazrialo, Pellicciotti Francesca, Hoelzle Martin, 藤田耕史
- A3-14 中央・東ヒマラヤにおける氷河湖決壊洪水の末端モレーンダムの形状に基づく定量的評価
○川口一路晴，Berthier Etienne, 近藤研, 坂井亜規子，藤田耕史
- A3-15 南パタゴニア氷原 Pío XI 氷河における 2018 年以降の末端変動と流動変化
○平野聖晃，波多俊太郎，杉山慎
- A3-16 360 度ボアホールカメラ観測から得られた Kongsvegen 氷河内部の碎屑物分布
○波多俊太郎，杉山慎，Hult John, Revheim Maiken, Inannen Satu, 喜多淳滋，下畑克洋，Schuler Thomas
- A3-17 衛星搭載 L-Band SAR を用いたフィレン域面積およびフィレンライン高度の長期変化観測
○有江賢志朗，田殿武雄
- A3-18 氷河質量収支観測を用いた氷河上の ERA5 降水量の評価と補正係数の推定
○鬼頭菜由，坂井亜規子，近藤研，藤田耕史
- A3-19 Global Glacier Albedo Evolution Under Climate Change Trends, Drivers, and Implications for Glacier Melt
○Draeger Christina, Fujita Koji

B 会場（2 号館 1 階 C121 講義室）

13 : 00~15 : 00

降雪・着氷雪（2）

座 長：岡崎友紀（電力中央研究所），畑谷友亮（花王株式会社）

発表順を入れ替えます

- B3-16 釧路試験線における顕著な着雪事例の観測 —2025 年 12 月 14 日~15 日の事例—
○松島宏樹，麻生照雄，岡崎友紀，垂石早紀，野村光春，松宮央登
- B3-13 釧路試験線における着雪サンプリング観測 —難着雪電線の効果発現と含水率の関係—
○麻生照雄，岡崎友紀，松島宏樹，松宮央登
- B3-14 地上高の異なるワイヤ支持式着雪サンプリングに対する着雪体含水率の影響度評価
○岡崎友紀，麻生照雄，野村光春，松宮央登，松島宏樹，垂石早紀
- B3-15 釧路試験線における顕著なギャロッピング事例の観測—2025 年 12 月 14 日~15 日の事例—
○垂石早紀，松宮央登，松島宏樹，岡崎友紀，麻生照雄，野村光春



B3-17 数値流体解析を用いた円形断面における雪粒子の衝突特性に関する研究
○保田宗輝，野口恭平，松宮央登，○松本龍輝，春名健太郎，八木知己

共著者の代理発表です

B3-18 疎水改質セルローズナノファイバーを用いた滑液表面技術と滑雪コーティングとしての応用
○畑谷友亮，長谷川嘉則，竹内黎明，駒見成実

B3-19 【講演取り下げ】

B3-18 の講演終了から間をおかずに B3-20 の講演を開始します

B3-20 落氷実験装置の製作 ―送電設備からの落氷を実験で検証する―

○森川浩司，大園智章，木村茂雄，白石智規，高田則之，佐藤篤司，小島徹也，遠藤悠

C 会場（2号館2階 C221 講義室）

13：00～15：00

雪氷と生活・雪氷と教育

座 長：日下稜（北海道立北方民族博物館），的場澄人（北海道大学）

C3-13 三重県における古代から近代までの雪氷冷熱利用

○和泉薫

C3-14 氷冷熱型貯蔵庫の製氷期間における凍結潜熱による昇温効果の把握

○加田有記，木村賢人，中島直久，宗岡寿美

C3-15 高齢者の家庭除雪の作業強度と身体活動量 -事例研究-

○須田力

C3-16 繊維製覆式落石防護網の積雪斜面への適用

○川端聡史，齋藤尚孝，吉田眞輝，山口悟，上石勲

C3-17 たかが転倒，されど転倒．冬道転倒の実態を知る！―2025-26 冬期の歩行者転倒体験アンケート調査結果報告―

○富田真未，金田安弘，永田泰浩，三原夕佳，川村文芳

C3-18 傾斜法による靴の滑りやすさ実験（予備実験）

○大宮哲，大川戸貴浩，金田安弘，小林利章，丹治和博，二階堂ひさえ，川瀬良司，大屋祐太

C3-19 博物館における冬期間の雪氷実験

○平松和彦，本部哲矢

C3-20 高校生は雪をどう意味づけるか―Snow Impact Map を活用した雪の探究学習と記述の分析―

○山本尚毅，譚林宣，宇野咲耶子，田中健人，北川真紀

D 会場（1号館1階 A101 講義室）

13：00～15：15

吹雪

座 長：新屋啓文（新潟大学），永田泰浩（北海道開発技術センター）

D3-11 Large-Eddy Simulation による柵周辺の吹雪の数値解析

○根本征樹

D3-12 吹雪数値シミュレーションによる積雪形状の再現性についての検討

○イセンコエフゲーニー，齋藤佳彦，根本征樹，鳥田宏行

D3-13 極域を対象とした ICESat-2 による blowing snow 発生頻度のトレンド解析

○杉浦幸之助，平沢尚彦

D3-14 新潟県における地吹雪発生時の気象場の解析

○丹治星河，本田明治，川瀬宏明，山根省三，吉田聡，山崎哲

D3-15 雪面せん断応力の直接計測に基づく吹雪発生条件および雪面侵食率の評価

○新屋啓文，大風翼，富永禎秀，根本征樹



- D3-16 小型風洞を用いた野外実験に基づく雪面構造と地吹雪発生の関係
○菅原邦泰，櫻井俊光，稲津將
- D3-17 後方散乱型視程計による降雪・地吹雪時の視程時間変動特性
○大風翼，松宮央登，大宮哲，新屋啓文
- D3-18 複数の定点カメラ画像で学習した AI を用いた車載カメラ画像による視程判別（その 2）— 一日中および夜間に撮影した車載カメラ画像を用いた視程判別—
○荻島葵，丹治和博，西村浩一
- D3-19 地形を活用した吹雪対策工法「防雪切土」は有効に機能しているか — 現地調査に基づく機能検証—
○金田安弘，永田泰浩，大宮哲，西谷尚峻，石本敬志



研究発表プログラム ポスター発表 1

ポスター展示時間 9月14日（月）09:00～9月15日（火）17:00

9月14日（月）15:30～17:00（コアタイム P1）

J-CAL ホール（1号館1階 コミュニケーションアトリウム）

雪氷化学

- P1-01 北陸地方における大気中の過酸化水素およびアルデヒド類の測定－エアロゾル生成および雪氷化学への影響評価－
○渡辺幸一，青木悠華，田谷つぐ美，入江紗希，平賀柚風，鷹取栞人，内藤拓洋
- P1-02 融雪期の山岳域における表層雪の冷蔵保存中における化学成分の濃度変化
○森智晴，山本彩人，渡辺幸一，新村拓己，東倉巧，酒徳昭宏，田中大祐
- P1-03 立山室堂平の積雪表面ダストにおける局所起源粒子の供給源評価－深成岩帯と火山岩帯の対比－
○安宅飛明，古川登，赤林哲也，竹内望
- P1-04 ドームふじ観測拠点Ⅱで掘削されたトレンチ断面から得られた複数の¹⁰Be 深度プロファイル：太陽活動と堆積ノイズの証拠
○熊倉有希，堀内一穂，井上峻，井上颯人，山形武靖，松崎浩之
- P1-05 南極雪氷中アンモニウムイオンの単離と同位体比分析
○平林幹啓，尾形純

雪崩

- P1-06 動態観測に基づく雪崩発生時の気象条件および雪崩の流動範囲
○新屋啓文，田邊章洋，砂子宗次朗
- P1-07 斜面定点カメラ画像を用いた AI による雪崩種別の画像分類
○藤沼勇斗，池田啓，荒川逸人，伊藤陽一，山口悟，中村一樹
- P1-08 Geometric Thresholds of Cryospheric Triggers: A Physical Analysis of Ice Avalanche-Induced GLOFs in the Himalaya
○ギミレスーダン，Ishikawa Mamoru
- P1-09 音響スピーカーを用いた注水に伴う積雪内音波伝播特性の連続モニタリング
○中山雅之，土井一生，大澤光
- P1-10 地震観測から推定された積雪層内での地震波伝播・増幅特性（その2）
○土井一生，大澤光，岡本隆，竹内由香里，勝島隆史，中山雅之
- P1-11 雪崩防護工（集落雪崩）における点検手法の提案
○榊直人，渡辺伸一，藤平大
- P1-12 全層雪崩の潜在的発生危険度の評価手法とその課題
○松元高峰，河島克久
- P1-13 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その8）－雪庇・吹きだまり形成過程の把握に向けた UAV-LiDAR 観測－
○布川大暉，齋藤佳彦，西村浩一，山口悟
- P1-14 2026年3月に北海道上富良野町で発生した雪崩の調査報告－2026/3/5 三峰山沢，2026/3/10 三段山安政火口側－
佐々木翔平，大西人史，坪島拓也，尾関俊浩，○原田裕介，雪氷災害調査チーム



積雪

- P1-15 雪壁雪溪の質量収支の研究（Ⅳ）－大雪山がどのくらい高いと氷河ができる？－
○高橋修平，亀田貴雄，白川龍生，高橋伸幸
- P1-16 人工衛星 Sentinel-2 の画像を用いた北海道の多年性雪溪の融雪末期の経年変化－2020 年から 2025 年までの 6 年間の変動－
○亀田貴雄，金井琉二，牛塚貴博
- P1-17 2026 年冬季における北海道広域の積雪特性～積雪重量・密度および断面観測結果～
○鈴木啓明，大屋祐太，三村慧，野口泉，堤拓哉
- P1-18 北見工業大学露場における積雪断面観測の概要と観測記録
○白川龍生，八久保晶弘，間島夏海，小島佑久
- P1-19 山形蔵王における雪氷現象の観測(2025/2026 冬季)
○沖田圭右，山谷睦，沼澤喜一
- P1-20 蔵王川原頭部の風衝地における積雪水量観測
○荒川逸人，安達聖，的場澄人，近藤ひかる，松元高峰，河島克久
- P1-21 積雪観測プラットフォームとしての立山・弥陀ヶ原雪原の特徴－2022-2026 年の気象と積雪の状況－
○堀雅裕，杉浦幸之助，川崎一雄，谷川朋範，大河原望
- P1-22 航空レーザー測量を用いて推定した新潟焼山北斜面の積雪水量分布とその高度依存性
諸本大輝，○河島克久，松元高峰，新屋啓文，渡部俊，西井稜子，片岡香子
- P1-23 UAV-LiDAR 観測による 2024～2026 年 4 月の立山黒部アルペンルートの積雪水量の高度分布の変化
○福井幸太郎，飯田肇，川瀬宏明
- P1-24 波長の異なるミリ波レーダーによる積雪深と雪面状態
○越國一九，天野佳将，酒井文則，櫻井俊光，菅原邦泰，松下拓樹
- P1-25 MSM ガイダンスと粘性圧縮圧密モデルを用いた簡易積雪深予測の試み
○本吉弘岐，中村一樹
- P1-26 領域気候モデルを活用した年最大積雪深の再現期待値およびバイアス特性に関する検討
○岡崎友紀，杉本聡一郎，北野慈和
- P1-27 等温条件下における積雪の水安定同位体比プロファイルの変化実験
○八久保晶弘
- P1-28 中札内における融雪期の積雪層の水安定同位体測定
○米谷玲惟，八久保晶弘，杉浦幸之助，堀雅裕
- P1-29 札幌で観測された積雪中ブラックカーボン濃度の時系列変化
○三村慧，野口泉，秋山雅行，山口高志，鈴木啓明，大屋祐太，堤拓哉
- P1-30 北海道中札内村で採取した積雪試料中の水不溶性不純物の総質量濃度－2025 年 2 月および 3 月の観測結果－
○川上莉奈，鈴木香寿恵，庭野匡思，谷川朋範
- P1-31 風洞型人工表面霜生成装置による表面霜の生成と剪断破壊試験－大型低温風洞による高い温度条件での生成実験－
○尾関俊浩，安達聖，中村一樹
- P1-32 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その 11）－1-プロモドデカン
を充填した雪氷試料の撮像手法（その 3）－
○安達聖，布川大暉，砂子宗次朗，西村浩一，山口悟
- P1-33 2025/26 年冬期の家屋被害発生時における雪おろシグナル情報－発信情報の改良に向けた事例検証－
○平島寛行，河島克久，本谷研，佐野浩彬
- P1-34 列車走行による鉄道軌道内の積雪変化に関する基礎的検討
○高見和弥，安達聖，佐藤亮太，田邊章洋，山本晃立
- P1-35 2025-26 年冬季の雪による人的被害の特徴－秋田県内における検討－
○本谷研



氷河

- P1-36 ポターニン氷河における「アルベド—光吸収性不純物—風化氷層」の相互関係
○坂井亜規子, 小林綺乃, 小野誠仁, 上田紗也子, 大畑祥, 渡邊彰, 長田和雄, 竹内望, Khalzan Prevdagva, 的場澄人, 谷川朋範, 青木輝夫
- P1-37 淡水性カービング氷河の周期的な変動
○箕輪昌紘
- P1-38 アラスカ山脈グルカナ氷河消耗域の暗色表面の UAV 画像深層学習による分類
○向後拓真, 西村基志, 小野誠仁, 赤林哲也, 近藤研, 竹内望
- P1-39 北極域氷河における雪氷藻類へのツボカビ感染の比較
○小林綺乃, 小野誠仁, 植竹淳, 薄羽珠ノ介, 鈴木拓海, 西村基志, 有江賢志郎, 島田利元, 大沼友貴彦, Arwyn Edwards, Tristram Irvine-Fynn, 竹内望
- P1-40 アイスランド南東部の氷河流動速度と気温との関係
○三橋拓哉, 松岡昌志
- P1-41 Proglacial lakes amplify glacier loss in High Mountain Asia via enhanced frontal ablation
○Cao Bo, Hock Regine, Yang Ruitang
- P1-42 アラスカ南東部タク氷河末端部における氷レーダを用いた氷厚測定
○張佳晏, 杉山慎, Hansen Dougal
- P1-43 南パタゴニア氷原 Pio XI 氷河の底面水圧と流動速度の変動
○近藤研, 杉山慎, Rada Camilo, Schaefer Marius, 平野聖晃, 張佳晏, Sandoval Paul, Cohen Nadia
- P1-44 深層学習を用いた天山山脈における短命氷河湖の高頻度モニタリング
○岡村豪大, 奈良間千之, 飯田佑輔, 宇田竜健

氷床

- P1-45 グリーンランド内陸部 EGRIP コアに含まれる鉱物ダストに関する研究—主に遠方起源ダストと気候変動の関係について—
○小室悠紀, 中澤文男, 東久美子, 永塚尚子, 平林幹啓, 尾形純, 福田かおり, 栗田直幸, 藤田耕史, 米倉綾香, 北村享太郎, Sune Olander Rasmussen, Giulia Sinnl, Trevor James Popp, Dorte Dahl-Jensen
- P1-46 南極ドームふじ氷床コアに記録された南極温暖化イベント 8-13 と最終退氷期における陸域起源及び海洋起源のエアロゾルの変動
○東久美子, 平林幹啓, 福田かおり, 尾形純, 奥村裕美, 大藪幾美, 北村享太郎, 中澤文男, 藤田秀二, 猿谷友孝, 茂木信宏, 近藤豊, 森樹大, 大畑祥, 小池真, 川村賢二
- P1-47 切削法を用いたアイスコア中 CO₂ の高精度分析
○鈴木舞生, 大藪幾美, 北村享太郎, 川村賢二
- P1-48 過去 70 万年間のドームふじアイスコアの年代決定
○大藪幾美, 川村賢二, Buizert Christo, 藤田秀二, 北村享太郎, 中澤高浩, 青木周司, 森本真司
- P1-49 南極沿岸域 H128 での 3m 深ピット観測から観察されたクラスト層の寿命推定
○杉浦幸之助, 岡田拓己
- P1-50 南極ドームふじにおけるトレンチ断面観測に基づく雪質と密度, 比表面積の二次元分布
○井上峻, 熊倉有希, 江刺和音, 井上颯人, 大野浩, 松本真依, 青木輝夫
- P1-51 冬季マイクロ波輝度温度差を用いたグリーンランド氷床における融解水再凍結に伴うフィルン内部構造の検出
○鈴木拓海, 島田利元, 可知美佐子, 有江賢志郎, 谷川朋範
- P1-52 氷床・氷河流動モデルの熱力学方程式の数値解法の検討
○齋藤冬樹



凍土

- P1-53 天山山脈、キルギス山脈の氷河・モレーン複合地形（GMC）の遷移・形成過程
○新井大樹，奈良間千之，Satarov Sagynbek
- P1-54 ハイパースペクトル画像を用いた凍土の判別と不凍水量マッピング
名和将晃，○渡辺晋生

気候システム

- P1-55 2024/2025 年冬季日本海の海面水温分布が日本の降雪および積雪特性に及ぼした影響
○田村健太，佐藤友徳
- P1-56 久慈川におけるシガ(晶氷)発生頻度と大気・海洋変動との関係
○関根一夫

雪氷と建築

- P1-57 無落雪屋根木造建築物の耐雪性に関する研究ーその 1 地球温暖化に伴う積雪時の降雨に関する研究ー
○秋山瑛二，松村光太郎
- P1-58 無落雪屋根木造建築物の耐雪性に関する研究ーその 2 無落雪屋根の積雪形状に関する研究ー
○松村光太郎，秋山瑛二
- P1-59 北海道における雪荷重による建物被害事例とその気象状況について
○野口泉，三村慧，大屋祐太，鈴木啓明

雪氷と教育

- P1-60 インタラクティブな可視化ツール「雪結晶 3D ビジュアル」の制作
○上村祥太郎
- P1-61 「天からの手紙」を読み解きたい（2025/26）
○後藤博
- P1-62 透明な雪結晶の焦点画像群からの相対深度推定ー焦点測度の正則化と深層学習による多界面深度の連続化ー
○牟田淳
- P1-63 温暖化による北極の海氷減少を題材とする高等学校「情報 I」の動画教材の制作
角田智彦，○丹羽淑博，武善紀之，松本直紀，井上裕貴
- P1-64 北海道北見における気象観測資料の発掘ー明治末期からの積雪観測記録に着目してー
○白川龍生，鈴木孝子，下田星児，伊藤公浩，吉野太陽
- P1-65 土壌凍結深の測定を通じたアウトリーチプログラム（14）
○原田鉦一郎，吉川謙二，岩花剛，Stanilovskaya Julia，澤田結基，曾根敏雄
- P1-66 アウトリーチとしての牛乳パックを使用した風穴実験 その 2
○曾根敏雄，斉藤和之，的場澄人，森淳子

SP1: 「雪害」×「レジリエンス」：雪害をしなやかに乗り越える雪国の知恵

- P1-67 2025/26 年冬期における札幌圏大雪の特徴ー蓄積型大雪とイベント型大雪の比較ー
○山口美里，白川龍生
- P1-68 CCTV カメラによる吹雪時における視程の高さ依存性
○櫻井俊光，武知洋太，越國一九，松下拓樹
- P1-69 自立型積雪深観測装置による除雪支援システムの開発
○山倉祐也，櫻井俊光，菅原邦泰，越國一九，松下拓樹，羽賀秀樹，齋藤隆幸
- P1-70 札幌都市圏における大雪時のレジリエンス向上に向けたモビリティ・マネジメントの検討
○大橋一仁，佐々木理人，川崎大輔，大井元揮，吉田隆亮
- P1-71 豪雪地帯における雪下ろしによる空き家管理の安全対策について
○堤拓哉，小西信義，大川戸貴浩



研究発表プログラム ポスター発表2

ポスター展示時間 9月14日（月）09:00～9月15日（火）17:00

9月15日（火）10:30～12:00（コアタイムP2）

J-CAL ホール（1号館1階 コミュニケーションアトリウム）

雪氷物理

- P2-01 屈斜路で観察される自然現象「ジュエリーバブル」に関する研究
○山田怜矢，林大翔，柳原陵我，舘山一考，原田建治
- P2-02 富山県における土壌表面温度および降水特性に着目した積雪形成条件の解析
○菅結太，杉浦幸之助，堀雅裕，河島克久
- P2-03 積雪の粒径分布と空隙径分布との関係(3)ー対数正規分布モデルによる解析ー
○山口悟，安達聖，田邊章洋
- P2-04 CO₂ハイドレートの核生成挙動に対する促進効果(3)ー液・液反応の核生成頻度に対する圧力効果ー
○内田努，山川柊士，神裕介，天満則夫
- P2-05 CO₂ハイドレート水和数導出のための重量測定法の適用について
○八久保晶弘，米谷玲惟，竹谷敏
- P2-06 重量測定法によるメタンハイドレート水和数導出の試み
○金丸真琴，米谷玲惟，八久保晶弘，竹谷敏
- P2-07 メタンハイドレート結晶中のゲスト自己拡散機構
○後藤大和，米谷玲惟，八久保晶弘，竹谷敏
- P2-08 氷粒子表面に生成した一酸化炭素ハイドレート膜厚の推定
○山崎泰平，米谷玲惟，八久保晶弘，竹谷敏
- P2-09 N₂Oハイドレート生成時のゲスト窒素同位体分別の圧力依存性
○大加田凌，後藤大和，八久保晶弘，竹谷敏
- P2-10 チアン分子に誘起されるハイドレートの結晶構造選択性ー構造II型と構造H型の形成条件境界の理解に向けてー
○神裕介，藤久裕司，木田真人，竹谷敏，長尾二郎

雪氷と生物

- P2-11 氷を析出する植物・アキチョウジー兵庫県内での氷析出を観察できる地域の予測ー
○武田一夫，藤井俊夫
- P2-12 樹木の冠雪害抵抗性の評価
○鳥田宏行
- P2-13 Sentinel-2衛星画像を使った北アルプスの赤雪分布解析ー2026年6月の立山室堂平の赤雪大発生の解析ー
○竹内望
- P2-14 アイスコアに含まれる微生物細胞の自動計測に向けた簡便・迅速な測定手法の検討(2)
○中澤文男，尾形純，奥村裕美，東久美子，川村賢二
- P2-15 Influence of Mineral Availability on Supraglacial Bacterial Communities in Northwestern Greenland
○ファーロングイーサン ジャック，植竹淳

吹雪

- P2-16 赤外線LED搭載の自動撮影カメラによる夜間の降雪検知の可能性
○永田泰浩，金田安弘



- P2-17 吹き止め柵における吹雪の低減効果に関する分析 ―数値流体解析のベンチマークデータ作成にむけて―
○三木雄詩, 櫻井俊光, 吉井昭博, 菅原邦泰, 松下拓樹
- P2-18 1回の吹雪イベントにおける吹き止め柵周辺の吹きだまり量
○吉井昭博, 櫻井俊光, 菅原邦泰, 三木雄詩, 松下拓樹
- P2-19 A GIS Framework for Quantifying the Snowdrift Protection Performance of Blower-Type Snow Fences- Integrating factors of Terrain, Vegetation, and Wind -
○Xie Yu Chen, Nagata Yasuhiro, Kaneda Yasuhiro, Okaze Tsubasa
- P2-20 汎用流体シミュレーションソフトウェアによる吹き払い柵の計算条件に関する研究
○坂下ひなの, 阿部和樹, 保木和弘, 幡鎌祐美, 白川龍生
- P2-21 昭和基地で観測された視程と領域気候モデル RACMO の blowing snow スキームによる吹雪フラックスとの関係
○添田照樹, 杉浦幸之助, 堀雅裕
- P2-22 X バンド MP レーダデータ等の活用による吹雪時の視程急変予測手法とその予測精度について―2025年度冬期の吹雪事例より―
○武知洋太, 越國一九, 松下拓樹
- P2-23 気象観測データに基づく視程低下リスク予測モデルの比較
○岡本大生, 池田啓, 根本征樹, 山口悟, 中村一樹
- P2-24 自然雪面のごく表層における微差圧の時系列変化
○菅原邦泰, 櫻井俊光, 松下拓樹
- P2-25 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その10）―小型 LiDAR を用いた雪庇形成過程の観測―
○明石一乃, 大風翼, 田邊章洋, 布川大暉, 齋藤佳彦, 西村浩一, 新屋啓文, 砂子宗次朗, 伊藤陽一, 山口悟

降雪・着氷雪

- P2-26 魚沼丘陵を越える雪雲に着目した事例解析と理想化実験
○山本晃立, 高見和弥, 佐藤陽祐, 端野典平, 鈴木賢士, 勝山祐太
- P2-27 ビデオディストロメータを用いた落下速度を利用しない新雪密度の推定手法の検討
○高見和弥, 勝山祐太, 鈴木賢士, 原優里佳, 高橋大介, 勝島隆史, 竹内由香里
- P2-28 温めたシリコンオイルを用いた氷粒子の密度測定方法
○藤森優香里, 鈴木賢士, 宮本奈歩, 原優里佳, 高見和弥
- P2-29 降水形態によるディストロメーターから推定した降水量への影響
○勝山祐太, 勝島隆史, 竹内由香里
- P2-30 雪質別の水平移流効果を考慮した地上降雪量の推定
○大屋祐太, 野口泉, 三村慧, 鈴木啓明, 堤拓哉
- P2-31 CNN を用いた雪片・霰の融解度合い分類
○宮本奈歩, 鈴木賢士, 藤森優香里, 原優里佳, 高見和弥
- P2-32 領域気象モデルにおける雪/霰比に関するモデル特性の検討
○橋本明弘
- P2-33 津軽地方における雪水比の長期変動と降雪環境場の変化
○長内勇人, 石田祐宣
- P2-34 北アルプス立山室堂と山麓における冬季の降雪成分濃度
○横山新紀, 森智晴, 山本彩人, 渡辺幸一
- P2-35 小規模低温実験室における着雪実験手法の検討（その4）―昇華凝結法の新たな人工雪生成装置の検討―
○野村光春, 松島宏樹, 麻生照雄, 松宮央登
- P2-36 基本形状モデルを用いた濡れ雪着雪試験
○鎌田慈, 室谷浩平, 佐藤研吾



- P2-37 全天候型人工気象室における温度および相対湿度をパラメータとした円柱への着雪実験
○野口恭平, 松宮央登, 松本龍輝, 保田宗輝, ニンガラディヘマントスバハス, 榎浩之, 吉田樹, 嶋寿泰
- P2-38 カイトシステムが曝される着氷環境を再現する着氷試験手法の開発
○浜嶋綾, 萩野直人, 佐藤研吾, 富樫数馬, 長谷川高之, 岩松史紘, 木村茂雄

融雪

- P2-39 飛来の影響を除外した野外観測に基づく積雪表層における不純物の濃縮量評価
○佐藤亮太, 船木明日奈, 河島克久, 松元高峰
- P2-40 積雪層内における融雪水の貯留・放出を分ける閾値
○大澤光, 平島寛行, 岡本隆, 勝島隆史

海水と陸氷

- P2-41 高分解能複合センサデータを使用した薄氷域氷厚推定
○若林裕之, 長幸平
- P2-42 Temporal changes in aufeis area and their relationship with climatic factors along the Eg and Ider Rivers, Mongolia
○Enkhjargal Undrakhbayar, Kunio Watanabe, Avirmed Dashtseren, Khurelbaatar Temuujin, Tsogoo Bilguun
- P2-43 機械学習を用いた結氷河川におけるアイスジャム予測手法の開発
○平田智道

観測・計測技術

- P2-44 融解期の積雪表面マイクロ波輝度温度特性
○直木和弘, 谷川朋範
- P2-45 全天分光日射計データに基づく積雪物理量推定の不確実性と縮退構造
○谷川朋範, 青木輝夫, 大河原望
- P2-46 ICTを活用した冬期道路管理の効率化に関する研究
○木谷彰伸, 高橋浩司, 中村哲也, 白川龍生
- P2-47 SGLI 地表面温度プロダクトを用いた永久凍土分布の高分解能推定手法の開発—夜間データに生じる欠損域の補間手法の検討—
○佐藤志海, 堀雅裕, 杉浦幸之助
- P2-48 2024 年度冬季・山形県新庄市における降雪粒子観測
○松本龍輝, 松宮央登, 野口恭平, 保田宗輝, 佐藤研吾, 富樫数馬, 鈴木紘一, 大風翼, 八木知己
- P2-49 導電式融雪センサ搭載 IoT 機器の開発および性能評価—融雪センサの性能評価と融雪の遠隔監視の可能性について—
○新井皓也, 森田友真, 四宮卓夫, 神谷弘志, 伊豫部勉, 安達聖, 荒川逸人, 山口悟

雪氷と社会基盤

- P2-50 2025 年度冬期の札幌市における冬道での転倒事故とウインターライフ推進協議会の活動報告について
○三原夕佳, 永田泰浩, 富田真未, 金田安弘, 大宮哲, 川村文芳
- P2-51 残雪リスクマップの作成
○碓井大成, 藤野丈志
- P2-52 側雪の影響等を考慮した積雪の走行抵抗荷重の測定
○高橋大介, 佐藤亮太
- P2-53 大型車のチェーン装着, 道路勾配および圧雪硬度に着目したスタックの脆弱性評価
○藤本明宏, 河島克久, 渡部俊, 村田晴彦, 伊藤雅基
- P2-54 積雪荷重が及ぼす老朽社会インフラの変状に関する研究—音威子府村中島橋の事例—
○白川龍生, 門田峰典, 高木優希



- P2-55 流雪溝投雪口の凍結防止策の検討に向けた基礎的調査
○小西信義, 大川戸貴浩, 米谷光司, 大宮哲
- P2-56 ミスト発生時における光源色の違いが透過率変化に及ぼす影響
○栗原伊吹, 安原薫
- P2-57 路肩堆雪形状推定手法の多冬期への適用可能性検証
○村田晴彦, 富田真
- P2-58 連続路面すべり抵抗計測装置を用いた路面すべり摩擦係数予測モデルの予測精度検証
○齊田光, 奥村航太, 佐々木優太, 菊田悦二, 中島州一
- P2-59 スマホ列車巡視積雪判定アプリの開発
○林奈津子, 伊豫部勉, 神谷弘志, 中村一樹, 上石勲
- P2-60 機械学習を用いた融雪装置自動管理に関する研究—画像認識で積雪を判定—
○吉田怜央, 安原薫
- P2-61 QRコードを用いたロードヒーティング積雪感知と省エネ自動制御システムの開発
○大石悠一郎, 田畑雅弘

雪氷と生活

- P2-62 雪冷房を導入した郊外型スーパーマーケットのライフサイクル評価—既設冷房との熱負荷バランスの検討—
武田希美, ○樋口健志
- P2-63 国内の風穴における風穴温度の比較—実測および過去の観測データを用いた検討—
○堀内雅生, 山口隆子
- P2-64 雪だるま出現の地域特性と気象学的特徴
○鈴木賢士, 坂井優太, 前田喜美, 杉立卓治
- P2-65 日本のスキー場における持続可能性課題の多様化—全国スキー場のクラスター分析の結果から—
○吉沢直, 勝山祐太, Berard-Chenu Lucas, 黒澤俊平, 呉羽正昭
- P2-66 多層膜材を用いた屋外雪貯蔵試験とその貯雪性能評価
○鈴木遥介, 寺崎寛章, 賈子芸, 石黒茂和, 佐野真也, 渋谷博章
- P2-67 二建屋構造の氷冷熱型貯蔵施設の熱負荷特性
○木村賢人, 五反田音々, 中島直久, 宗岡寿美
- P2-68 雪さらしの効果とメカニズム—「本製小千谷縮・越後上布」の製作工程における利雪—
○西脇聖
- P2-69 雪に対する住民ナラティブの構造化による地域価値の可視化—Snow Impact Mapを用いた豪雪地域の価値再解釈—
○譚林宣, 山本尚毅, 宇野咲耶子, 田中健人, 北川真紀
- P2-70 大学キャンパスを雪に触れなおす場—多様なアクターでつくる『北大スノーパーク』の実践報告—
山本尚毅, ○田宮一樹, 濱田翔一
- P2-71 士別市立博物館和泉雅子コレクション—1990年前後に収集されたグリーンランド・カナダの資料—
○日下稜

SP2: 雪氷の造形に関する自由研究（2026・北見）

- P2-72 妙高山の雪形「はね馬」2シーズンの観察結果とその違いについて
○渡辺伸一
- P2-73 積雪構造の時空間的変動を考慮した雪崩の動的ハザードマップの構築（その13）—3Dプリンタによる積雪構造の印刷—
○大風翼, 田邊章洋, 布川大暉, 安達聖, 齋藤佳彦, 西村浩一, 山口悟